中間評価（ステージゲート審査）結果

1. 研究課題名： 幼少期の社会的環境が成熟後の生きやすさに及ぼす影響
2. 研究代表者： 高柳 友紀（自治医科大学 医学部 講師）
3. 中間評価（ステージゲート審査）コメント

本課題は、幼少期の社会的環境による社会性やレジリエンス（困難や逆境を乗り越える力）の発達に着目し、これに関連する分子と神経回路を網羅的に探索して同定することを目的としている。

フェーズ1では、タモキシフェン存在下で神経活動依存的にCreが機能するFosTRAPラットや、オキシトシン受容体-Venus-Flippase ノックインラットを作成し、各種遺伝子改変動物モデルを用いた行動評価系を構築するなど、意欲的に取り組んでおり、派生的なデータも得られている。また、複雑な社会行動の自動解析システムと音源定位システムの融合には独自性がある。フェーズ2の研究計画では、ラットの集団行動の自動解析システムの完成、幼少期の社会的環境によるオキシトシン神経回路の可塑的变化や糖鎖修飾の意義、及びそれらの解明を期待したい。

以上